

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ
サステナブルファイナンス
フレームワーク

2024 年 7 月



目次

1. はじめに.....	3
1.1. MUFG 概要.....	3
1.2. MUFG Way.....	3
1.3. サステナビリティ経営.....	3
1.4. サステナビリティ推進体制.....	5
2. フレームワーク概要.....	6
2.1. 調達資金の使途.....	6
2.2. プロジェクトの評価及び選定プロセス.....	7
2.3. 調達資金の管理.....	7
2.4. レポーティング.....	7
3. 外部レビュー.....	8

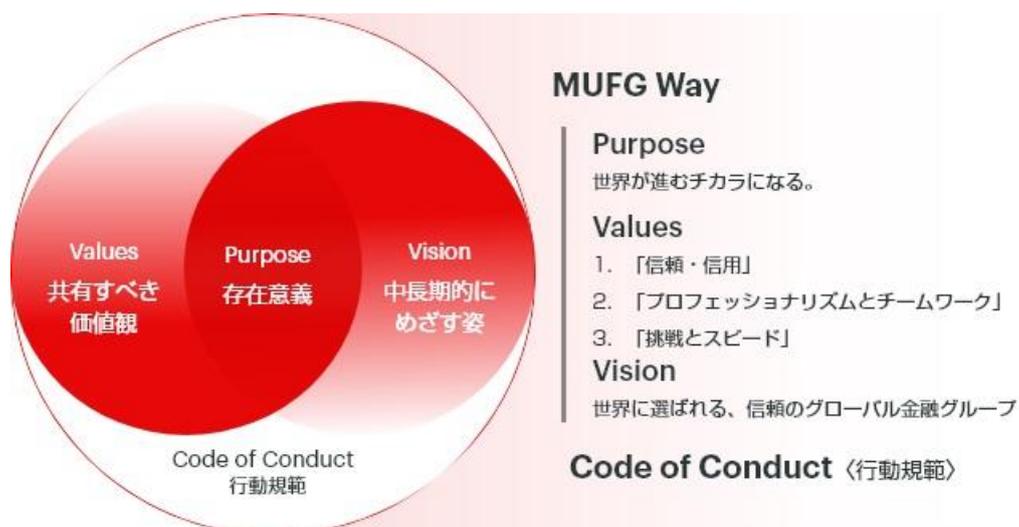
1. はじめに

1.1. MUFG 概要

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ(以下、「MUFG」)は、経営統合を経て 2005 年 10 月 1 日に誕生した金融持株会社で、国内外で金融サービスを提供する日本最大の銀行持株会社であり、世界最大の金融機関の 1 つです。MUFG は、デジタルサービス事業本部、法人・リテール事業本部、コーポレートバンキング事業本部、グローバルコマーシャルバンキング事業本部、受託財産事業本部、グローバル CIB 事業本部、市場事業本部の 7 事業本部を擁しており、お客さまの幅広いニーズにお応えするため、グループ各社それぞれの強みを融合させた戦略の立案や施策の運営を行っています。

1.2. MUFG Way

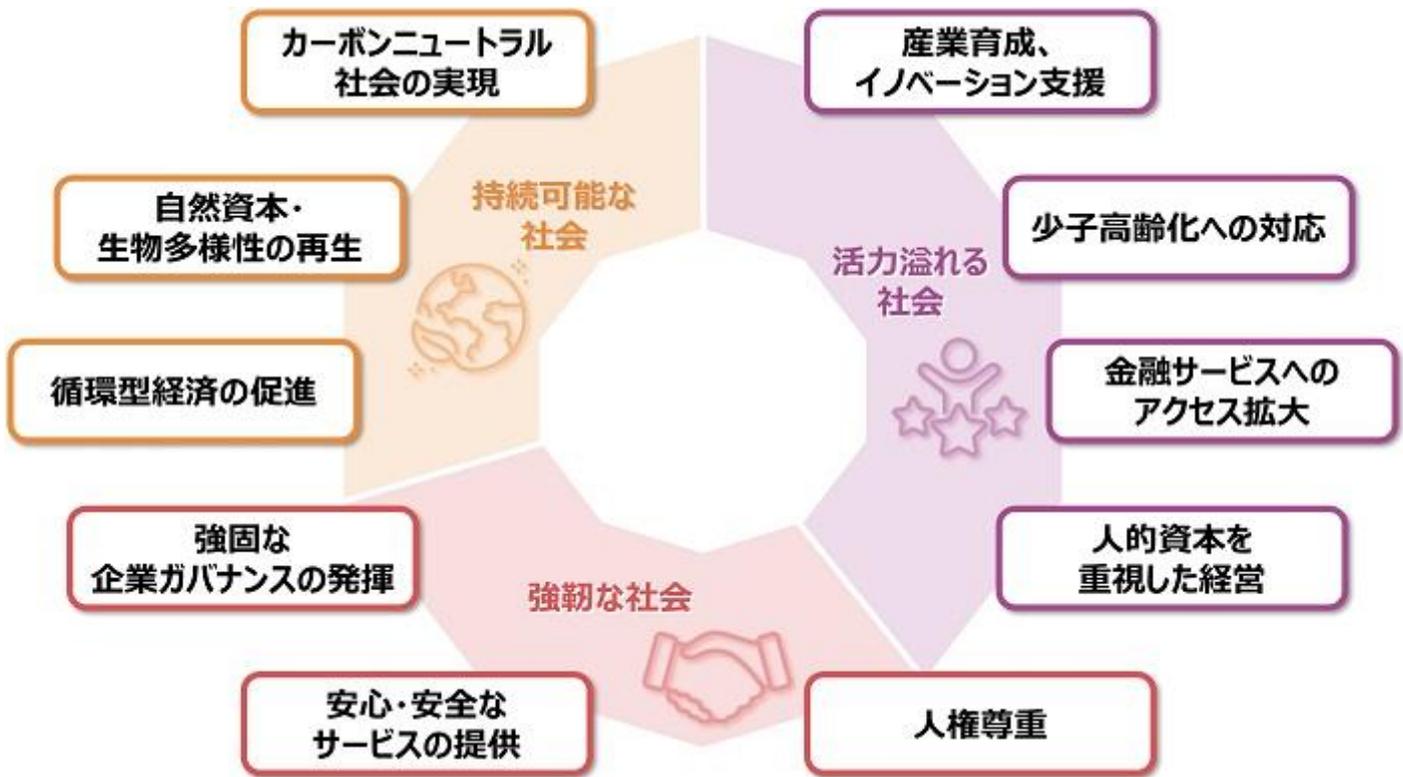
MUFG Way は、MUFG グループが経営活動を遂行するにあたっての最も基本的な姿勢であり、全ての活動の指針とするものです。経営戦略や経営計画の策定など、経営の意思決定のよりどころとし、また、全役職員の精神的支柱として、諸活動の基本方針とします。



1.3. サステナビリティ経営

「持続可能な環境・社会が MUFG の持続的成長の大前提であるとの考えのもと、環境・社会課題の解決と MUFG の経営戦略を一体と捉えて価値創造に取り組む」ことが、MUFG のサステナビリティ経営です。

MUFG は、2024 年度からの 3 年間を計画期間とする中期経営計画において、社会課題解決への貢献を経営戦略と一体化させ、これを中計の 3 本柱の 1 つと位置づけ、取り組みを一層強化していきます。持続可能な環境・社会の実現に向け、サステナビリティ経営において優先的に取り組む課題を設定しており、その中でも「カーボンニュートラル社会の実現」は最重要課題の 1 つとなっています。



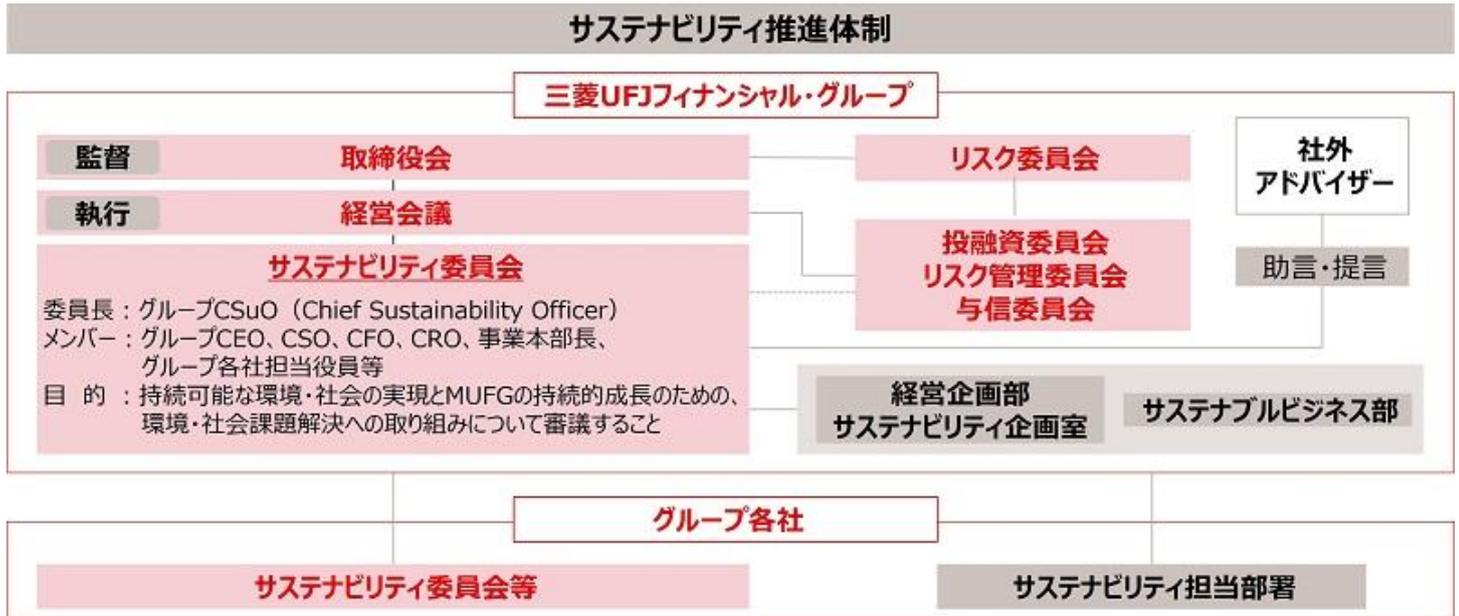
MUFG は、2021 年 5 月に「カーボンニュートラル宣言」を公表し、2050 年までの投融資ポートフォリオの GHG(温室効果ガス)排出量ネットゼロ、2030 年までの MUFG 自らの GHG 排出量ネットゼロにコミットしました。それ以降、自社排出削減や、お客さまの脱炭素化支援、Net-Zero Banking Alliance (NZBA)ガイドラインに基づくセクター別の 2030 年中間目標設定に加え、リスク管理やガバナンス等の体制構築にも取り組んできました。



1.4. サステナビリティ推進体制

MUFG は、取締役会の監督のもと、「サステナビリティ委員会」を中心としたサステナビリティ推進体制を構築しています。本委員会は、サステナビリティの取り組み全般について責任を負うグループ CSuO (Chief Sustainability Officer) が委員長を務めています。CSuO は、経営企画・戦略担当であるグループ CSO (Chief Strategy Officer) のもと、経営戦略と一体でサステナビリティの取り組みを推進しています。

MUFG は、サステナビリティ委員会を原則年 1 回以上開催し、サステナビリティへの取り組み状況の確認と審議を行い、その内容を経営会議および取締役会に付議・報告し、取締役会の監督を受けています。また、サステナビリティに関する課題やリスクについて、常時専門家からの意見聴取を可能にするため、3 名の社外アドバイザーを招聘しており、取締役会メンバーと意見交換を行い、専門的立場からの助言・提言を MUFG のサステナビリティへの取り組みに活かしています。



2. フレームワーク概要

MUFG が策定するサステナブルファイナンスフレームワーク(以下、「フレームワーク」)は、国際資本市場協会(ICMA)によるグリーンボンド原則 2021(以下、「GBP」)、ソーシャルボンド原則 2023(以下、「SBP」)、サステナビリティボンド・ガイドライン 2021(以下、「SBG」)及びローン・マーケット・アソシエーション(LMA)、アジア太平洋ローン・マーケット・アソシエーション(APLMA)、ローン・シンジケーション&トレーディング・アソシエーション(LSTA)によるグリーンローン原則 2023(以下、「GLP」)、ソーシャルローン原則 2023(以下、「SLP」)が定める4つの要素に適合しております。

当該フレームワークに基づくグリーン、ソーシャル、サステナビリティボンド又はローン(サステナブルファイナンス)により調達した資金は、以下に記載される調達資金のクライテリアに基づいて充当される予定です。

2.1. 調達資金の使途

サステナブルファイナンスにより調達した資金は、MUFG の子会社である三菱 UFJ 銀行に対する融資を通じて、同行により以下で規定する既存又は新規の適格グリーン、ソーシャルプロジェクトのファイナンス又はリファイナンスに充当します。

適格グリーン、ソーシャルプロジェクトは、以下の i) と ii) の両方の条件を満たすものになります。

i). 下記のプロジェクトカテゴリ1 から 6 の少なくとも一つ以上に該当していること。

グリーン分野の適格カテゴリ

プロジェクトカテゴリ	適格クライテリア	SDGs との整合性
1. グリーンビルディング	<ul style="list-style-type: none"> 適格グリーンビルディング(J-REIT の保有分を含む)は、以下のいずれかの認証をグリーンボンド/ローンの償還までに取得又は将来取得予定の不動産に対する新規又は既存の融資 <ul style="list-style-type: none"> LEED:Platinum 又は Gold(CO2 排出量を算出可能な不動産に限定) BREEAM:Outstanding 又は Excellent(CO2 排出量を算出可能な不動産に限定) CASBEE:S ランク又は A ランク(CO2 排出量を算出可能な不動産に限定) DBJ Green Building 認証:5 つ星又は 4 つ星(CO2 排出量を算出可能な不動産に限定) 	11
2. 再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 以下の基準を満たす、再生可能エネルギー発電プロジェクトに対する新規または既存の融資 <ul style="list-style-type: none"> 赤道原則のカテゴリB 又はカテゴリC に分類され、かつ、太陽熱発電、太陽光発電、陸上及び洋上風力発電における開発工事、運転又は施設拡張に関連する費用 	7

ソーシャル分野の適格カテゴリ

プロジェクトカテゴリ	適格クライテリア	対象となる人々	SDGs との整合性
3. 必要不可欠なサービスへのアクセス(医療)	<ul style="list-style-type: none"> 対象となる医療が低所得者層にもアクセス可能であることを要する医療施設への融資。具体的には以下施設向けの融資を予定 <ul style="list-style-type: none"> 海外施設: 公的病院 国内施設: 公的病院、社会医療法人及び社会福祉法人が運営する病院 	<ul style="list-style-type: none"> 一般大衆 	3
4. 必要不可欠なサービスへのアクセス(教育)	<ul style="list-style-type: none"> 公立学校を対象とし低所得者層にもアクセス可能であることを要する学校への融資 	<ul style="list-style-type: none"> 一般大衆 	4
5. 雇用創出(自然災害)	<ul style="list-style-type: none"> 震災、台風等の災害からの復興に寄与するプロジェクト/融資 <ul style="list-style-type: none"> 「復興特区支援利子補給金制度」及び「津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金」を利用する事業者への融資に優先して充当予定 	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害による被災地で事業を営む企業及び当該地域の住民 	8
6. 手頃な価格の住宅	<ul style="list-style-type: none"> イングランドにおける登録業者ある公共住宅供給業者向けのプロジェクト/融資 	<ul style="list-style-type: none"> 貧困ライン以下で暮らしている人々 	11

ii). 当該サステナブルファイナンスの実行日から遡って 36 か月以内に三菱 UFJ 銀行が融資したプロジェクト、又は実行日以降に新規に融資するプロジェクトであること。

長期のグリーン資産に対して、複数回のグリーンボンド/ローンによる調達資金でリファイナンスを行う場合、MUFG は、本フレームワークに基づく最初のグリーンボンド/ローンに先立って当該資産の経過年数および残存耐用年数を第三者機関に開示し、当該機関が年次レビューを行う際に最新の情報を提供します。提供された情報は、当該機関によるレビューを受け、長期のグリーン資産の環境改善効果の持続性が確認されます。

除外クライテリア

化石燃料資産、化石燃料を利用した輸送機関／インフラ、主として化石燃料を輸送するインフラおよび輸送機関、防衛および安全保障、パーム油、木材パルプ、原子力発電、石炭火力発電、並びにすべての鉱業とたばこ業界に関連したプロジェクトを本フレームワークから除外。

2.2. プロジェクトの評価及び選定プロセス

本フレームワークを通じて融資・リファイナンスされるプロジェクトは上記の適格クライテリアに基づき評価、選定されます。適格グリーンプロジェクトの選定に関しては、三菱 UFJ 銀行経営企画部サステナビリティ企画室環境社会 Gr 及びソリューションプロダクツ部が、適格ソーシャルプロジェクトに関しては、カテゴリに応じてコーポレート情報営業部、ソリューションプロダクツ部又は財務企画部 CFO 室がクライテリアに適合したプロジェクトの選定を行います。適格プロジェクトを選定する際の最終判断は、グリーン・ソーシャルプロジェクト共に MUFG 財務企画部 CFO 室が行います。

環境リスク、社会的リスク低減のためのプロセス

MUFG は、グループ各社の事業活動により生じる環境・社会に対するリスクを真摯に対応すべき経営上の重要課題と認識し、様々なステークホルダーの意見や考え方を踏まえ、MUFG の環境への取組方針を定めた「MUFG 環境方針」、MUFG の人権への取組方針を定めた「MUFG 人権方針」のもと、「MUFG 環境・社会ポリシーフレームワーク」を制定しています。

MUFG は、ファイナンスを通じて事業に内在する環境・社会影響を発生させ、または環境・社会に対するリスクを拡大させる可能性があることを認識し、本フレームワークを主要子会社の法人顧客向けの全ての国・地域における新規ファイナンスに適用するとともに、それぞれの業務に固有な社内の手続きと基準に組み入れます。

また、三菱 UFJ 銀行では、大規模プロジェクトによる環境・社会リスクと影響を特定、評価し、管理するための枠組みである赤道原則 (Equator Principles) の採択と遵守を通じ、持続可能な環境・社会の実現に貢献しています。

MUFG の環境・社会ポリシーフレームワークについては、下記ウェブサイトを確認することができます。

<https://www.muftg.jp/csr/policy/index.html>

2.3. 調達資金の管理

サステナビリティファイナンスで調達された資金は、三菱 UFJ 銀行に融資され、三菱 UFJ 銀行は、調達資金の全額を適格グリーン及びソーシャルプロジェクト/融資に充当します。MUFG は三菱 UFJ 銀行の社内融資管理システムを使用して適格グリーン及びソーシャルプロジェクト/融資への資金の充当状況を少なくとも 1 年に 1 回モニタリング及び追跡管理します。

また、全額が充当されるまで、三菱 UFJ 銀行は未充当額と同額を現金、現金同等物、又は市場性のある証券に投資する予定です。

2.4. レポーティング

資金充当状況レポーティング

MUFG はウェブサイト上で調達資金の充当状況についての情報を公表し、調達した資金の全額が充当されるまで 1 年毎に、以下に関する情報を提供します。なお、全額充当後は新たな状況が発生した場合に、必要に応じて情報の更新を行います。

- グリーン及びソーシャルプロジェクト/融資にかかる調達資金の充当および未充当状況
- サステナビリティファイナンスで調達した資金の充当に関する経営陣のマネジメント・アサーション

インパクト・レポーティング

MUFG は以下の内容を含むインパクト・レポートを当該サステナブルファイナンスが残存する限り、毎年実施します。

No	プロジェクトカテゴリー	インパクトレポーティング KPI
1	グリーンビルディング	• CO2 排出削減量
2	再生可能エネルギー	• CO2 排出削減量 • 再生可能エネルギープロジェクトにおける発電量 (kWh)
3	必要不可欠なサービスへのアクセス(医療)	• 医療サービスを受ける人の数 • 病床数
4	必要不可欠なサービスへのアクセス(教育)	• 教育サービスを受ける人の数
5	雇用創出(自然災害)	• 創出された雇用数 • 復興特区支援利子補給金制度及び津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金等を利用する事業者への融資件数
6	手ごろな価格の住宅	• 住宅供給件数

レポーティングは MUFG のウェブサイトで行われます。

3. 外部レビュー

当該フレームワークは、Sustainalytics 社からセカンド・パーティー・オピニオンを取得しています。Sustainalytics 社からのセカンド・パーティー・オピニオンについては、MUFG のウェブサイトで公開されます。
また、調達資金の充当状況についても Sustainalytics 社からレポートを取得する予定です。